

第1章 計画策定の経緯と目的

1. 計画策定の経緯と目的

福島県伊達郡国見町に所在する阿津賀志山防塁（あつかしやまぼうるい）は、昭和56年に国の指定を受けた史跡である。

阿津賀志山防塁は、昭和49年から本格化した県営伊達西部地区圃場整備事業の対象地として、その大部分が計画範囲となったことを契機とし、史跡の指定の動きが加速し、昭和56年にその一部が初めて国の史跡として指定を受ける。指定直後から公有地化の取り組みが行われ、保存が進められてきた。平成元年には阿津賀志山合戦800年記念事業により、阿津賀志山防塁保存管理計画策定事業が開始され平成6年に策定がなされた。保存管理計画において示された方針のもとに、公有地化事業の再着手、史跡の範囲確認の発掘調査事業が開始され、平成28年には史跡の追加指定を受けている。

この間、平成27年2月に国見町歴史的風致維持向上計画（歴史まちづくり計画）の認定を受け、平成23年3月11日に発災した東日本大震災からの復興をすすめる国見町のまちづくりにおいて、歴史を活かしたまちづくりの方針が定められた。阿津賀志山防塁の整備事業においても、同計画の事業として位置付けられている。

また、平成27年6月には阿津賀志山防塁整備基本構想を策定し、整備にかかる基本方針を定めた。

本計画は、阿津賀志山防塁保存管理計画、同整備基本構想に基づき、国見町のシンボルである阿津賀志山防塁を地域の誇りとして後世に継承するため、魅力ある史跡空間の創造に向けた整備を行うことを目的とし、基本計画を策定するものである。

2. 本計画の構成

本計画は、平成27年度から平成36年度までの阿津賀志山防塁第I期整備にかかわる整備基本計画および、下二重堀地区における整備地区計画について策定したものである。

第2章から第5章までは、史跡未指定地を含めた阿津賀志山防塁全体についての概要及び現況（第2章）、本質的価値としての守るべき価値と対象の明確化（第3章）、整備に向けた課題の整理（第4章）、課題の対策としての整備の方針（第5章）を示している。

第6章の下二重堀地区計画においては、基本計画で示された方針に基づき、下二重堀地区を対象とし、具体的な方針を記述する。

なお地区計画については、第5章において、史跡公園の整備を行う国道4号北側地区及び下二重堀地区について設けることとしている。このうち下二重堀地区は、史跡範囲の調査確認や公有地化の状況より整備の早期着手が可能であり、また本史跡の中で最も来訪者が多く、中尊寺蓮池とあわせた整備計画の検討が必要な地区であることから、先行して地

区計画を定めるものである。

また、本計画の整備対象範囲は史跡指定地を核とするが、近年の調査により重要性が明らかとなってきた周辺の地形についても範囲として取り込み、史跡整備・周辺整備を一体性のあるものとする。

3. 計画の対象と期間

(1) 計画の対象

阿津賀志山防塁（遺跡番号 0730300076）

遺跡面積 120,000.00 m²

史跡面積 38,308.30 m²

うち公有地面積 25,943.34 m²

(2) 計画の期間

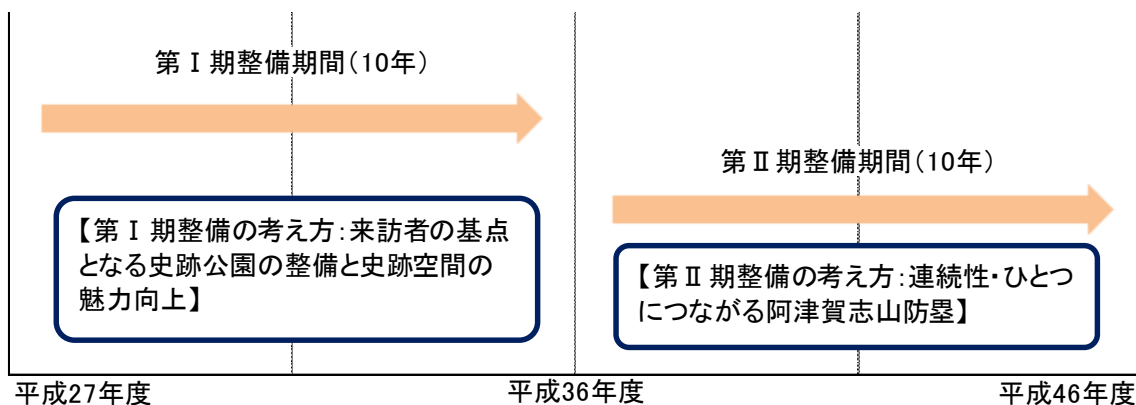
平成 27 年度～平成 36 年度までの 10 年間（第 I 期整備）

(3) 整備対象箇所

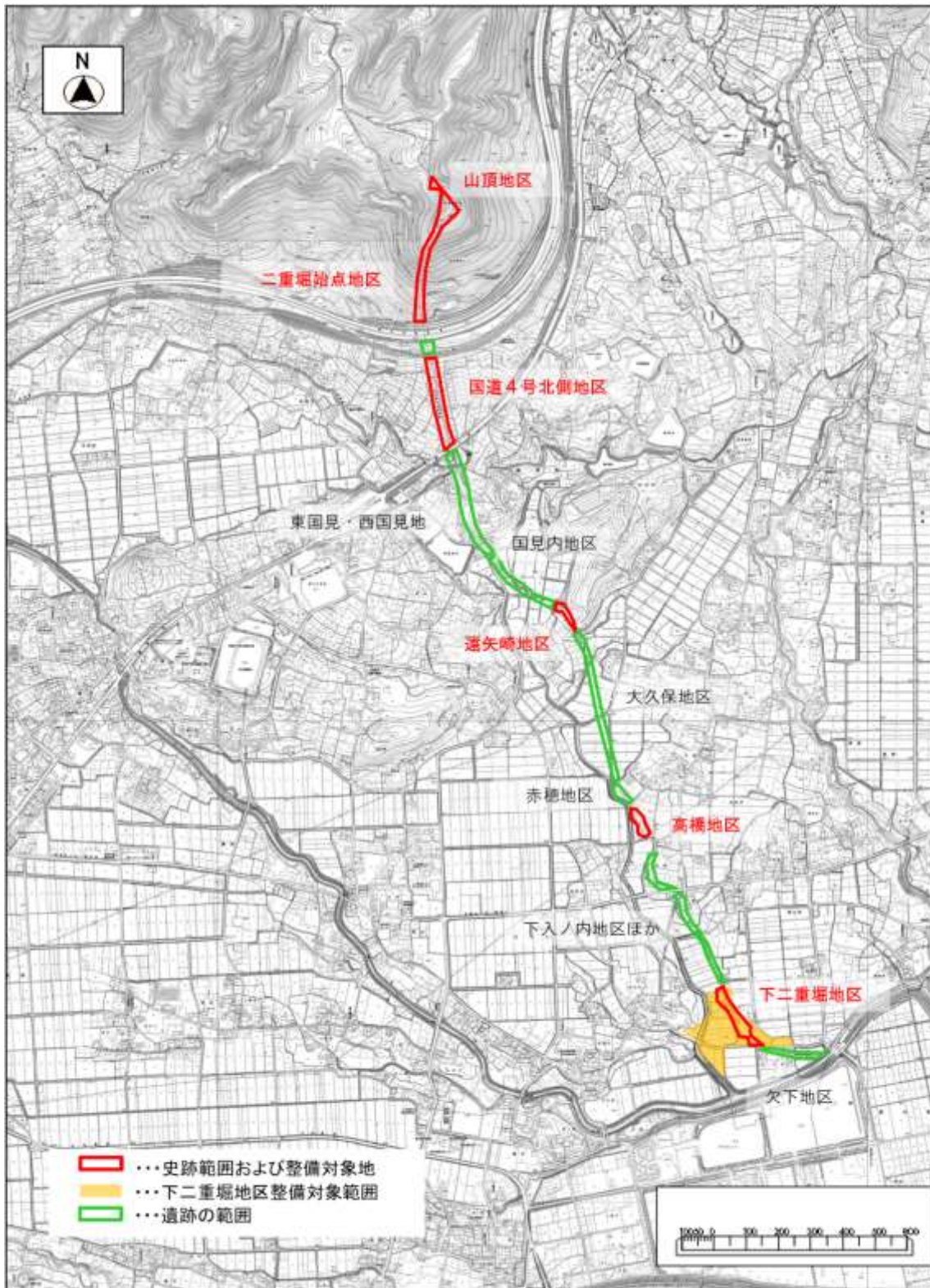
【史跡公園整備】 国道 4 号北側地区・下二重堀地区

【環境整備】 山頂地区・二重堀始点地区・遠矢崎地区・高橋地区

■ 第 I 期・第 II 期整備期間



■ 史跡範囲及び第 I 期整備対象地等



4. 委員会の設置

策定に際して「阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会」を設置し、検討を行うものとした。同委員会委員は、文献史学、考古学、保存科学、造園、景観、活用、観光、地域史の分野からの専門家および、地元において活用に携わる町民から選出した。

■阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会名簿

氏名	役職等	専門分野	備考
入間田 宣夫	東北大学名誉教授	文献史学	委員長
上原 真人	京都大学名誉教授	考古学	副委員長
澤田 正昭	東北芸術工科大学文化保存修復研究センター長	保存科学	
高橋 充	福島県立博物館学芸課 専門学芸員	文献史学	
仲田 茂司	有限会社仲田種苗園 代表取締役	考古学・造園	
知野 泰明	日本大学工学部准教授	景観	
鈴木 和隆	うつくしま NPO ネットワーク事務局長	活用	
石井 みな子	株式会社パーティ・フー代表取締役	活用	
伊藤 祐子 福山 佳代子	じゃらんリサーチセンター	観光	(平成 28 年度) (平成 29 年度)
笠松 金次	国見町郷土史研究会会員	地域史	
氏家 博昭	国見町中尊寺蓮育成会会長	地元	
小川 恵見	国見町文化財ボランティア	地元	

■指導・助言

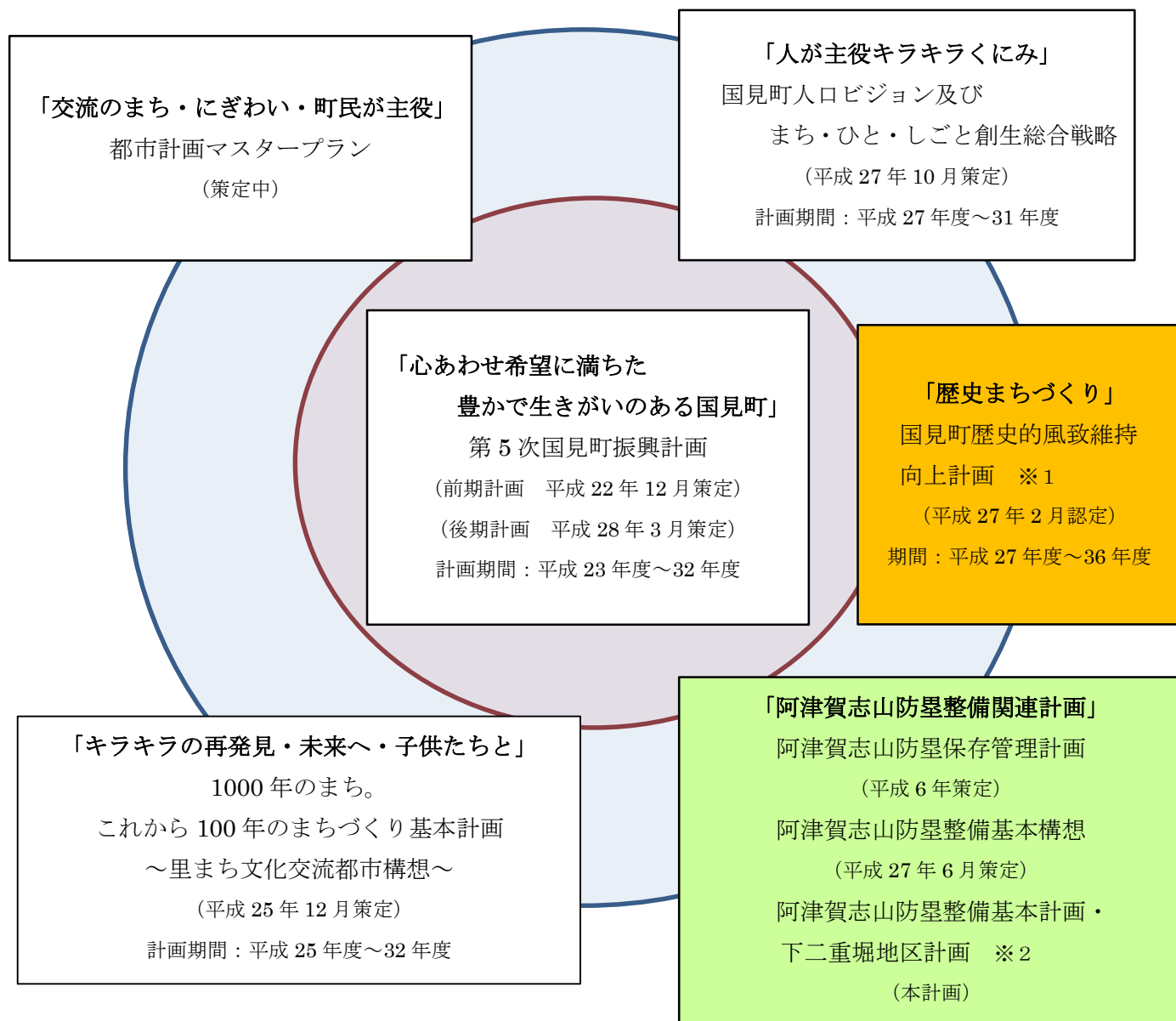
氏名	所属等	専門分野	備考
菊池 利雄	元国見町文化財保護審議会会長	地域史	顧問
五島 昌也	文化庁文化財部記念物課 文化財調査官		
小野 忠大	福島県教育庁文化財課 専門文化財主査		

5. 上位・関連計画

(1) 関連行政計画

本計画策定にあたり、関連する行政計画について以下に示す。各計画の連携をもってまちづくりを進める。

また、阿津賀志山防墨整備関連計画以外について、歴史まちづくりや阿津賀志山防墨整備に関連する本文中の記述について、以下のとおり抜粋する。





※1 歴史的風致の維持向上に資する各種事業等の推進・管理

※2 歴史的風致維持向上計画と整合性を図る

① 第5次国見町振興計画（後期計画）（平成28年3月策定）

《抜粋》

I. 地域資源を活かしたまち～里まち・活力のまち・巡りのまち～

基本施策	主な事業（重点事業）	事業概要
10 国見町の資源を活かした観光振興 	歴史を活かしたまちづくり推進事業【イ】☆	町内にある数多くの文化財について、保存に留まらず、活用への転換を図り、情緒あふれる良好な景観の形成、環境資源や教育活動の場としての活用など、地域のたからものを磨き上げていきます。 目標数値（H32：KPI）⇒文化財の活用利用者数：年間2,000人 【H26 国見町調べ：1,052人】 成果目標（最終到達点）⇒人口減少相当分の交流人口の拡大
11 歴史や文化財の保護と活用 	歴史まるごと博物館事業【イ】☆	町全体が博物館、町民ひとりひとりが学芸員となり、町民も町外の人たちも国見町の豊かな自然・歴史文化を実感できるエコミュージアム(*)づくりを推進します。 目標数値（H32：KPI）⇒案内ボランティア数：100人 【H26 国見町調べ：21人】 成果目標（最終到達点）⇒人口減少相当分の交流人口の拡大
	阿津賀志山防塁整備事業【ヌ】	貴重な文化遺産を後世に伝え残していくため、国史跡「阿津賀志山防塁」の史跡整備と保存に向けた取り組みを進め、保護と活用を図ります。

② 1000年のまち。これから100年のまちづくり基本計画（平成25年12月策定）

《抜粋》

4 生活基盤が整備されたまち

国見町の自然を守り育てることによって、私たちの暮らしに安らぎと潤いがあふれる町を目指します。また、国道4号、東北自動車道・国見インターチェンジ、東北本線藤田駅・貝田駅、東北新幹線といった交通の結節点、国史跡「阿津賀志山防塁」、国登録文化財「奥山家住宅」等の観光振興の拠点、福島県の北の玄関口としての機能と利便性を高めるとともに、旧奥州街道の藤田宿・貝田宿、旧羽州街道の小坂宿等の歴史的背景に配慮した風格のある町を目指します。

(1) 観光PR活動

- 平成27年春に行われる「JRデスティネーションキャンペーン」を活用することなど、これまでにない他業種とのコラボレーションを図ることが必要です。
- 阿津賀志山や阿津賀志山防塁下二重堀、中尊寺蓮池等は、よりセンスアップを図ったうえで、PR活動に取り組みます。
- 観光資源の組み合わせ、ルートの提案を検討し、旅行会社等にアピールする手法を考えます。

(3) 文化財の積極的活用、観光ガイドの育成


- 街なかの文化財は、重要な観光資源です。例えば、国登録有形文化財である「奥山家住宅」。街なかの観光資源となる宝ものです。
- 町内に数多くあるその他の文化財についても、「保護」から「活用」への転換を図ることとします。
- 「国見町文化財ボランティア」と連携しながら、観光ガイドの育成に努めます。

③ 都市計画マスタープラン（平成 30 年度策定予定）

④ 国見町人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 27 年 10 月策定）

《抜粋》

(4) 具体的な施策/施策ごとの重要業績評価指標

重点プロジェクト	具体的施策(事業)	重要業績評価指標(KPI)	H26基準数値	H31目標数値
歴史まちづくりプロジェクト	⇒ 第5次国見町振興計画 IV-6 歴史や文化財の保護と活用			
	歴史を活かしたまちづくり推進事業	文化財ボランティア利用者数	1,052人	年間2,000人
	歴史まちづくりの普及啓発と調査研究を進め、歴史的建造物の修繕などの職人学校や伝統的技術の継承・復活に向けた取り組み、子どもから大人までの歴史文化の専門ボランティアガイド講座などの人材育成に取り組み、歴史コンテンツの利活用拡大を図ります。 町内にある数多くの文化財について、「保存」に留まらず、環境整備により「活用」への転換を図り、情緒あふれる良好な景観の形成、観光資源や教育活動の場としての活用など、地域のたからものを磨き上げていきます。			【現状】 ○歴史まちづくりフォーラム(任意団体)によるシンポジウム、ワークショップ、研究会の開催 ○石造建築物調査、巻物調査の実施
	歴史まるごと博物館事業	訪問者数	一人	年間300人
	町全体が博物館、住民ひとり一人が学芸員となり、地域の住民も町外の人たちも国見町の豊かな自然・歴史文化を堪能できるエコミュージアム(※5)づくりを推進します。 モデル地区を中心に、文化活動を行う団体、企業、NPO、ボランティア等と連携しながら、歴史文化を学び、村々の新りや生活文化、現在の産業や人々に触れ、訪問者が地域を巡り体験できるプログラムづくりを進めます。			【現状】 ○福島大学との連携 フィールドワーク調査の実施
	伝統芸能・無形民俗文化財継承事業	継承者数	150人	累計200人
	内谷春日神社太々神楽をはじめとする伝統芸能の後継者を育成し、伝統文化の継承と文化を通じた世代間交流を図ります。 保護継承団体と連携した映像による記録保存や、練習教室の開催や伝統芸能の披露の機会を増やすなど、地域の子どもたちに自分の住む地域の歴史や神礼、伝統芸能に関わる機会を創出します。			【現状】 ○内谷春日神社太々神楽の映像記録撮影 ○子ども太々神楽教室の開催 ○鹿島神社例大祭の教育普及冊子作成

⑤国見町歴史的風致維持向上計画（平成27年2月認定）

《抜粋》

事業名	3. 阿津賀志山防塁歴史公園整備事業
整備主体	国見町
事業手法 (支援事業名)	町単独事業 ※社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)の活用を検討
関連計画	阿津賀志山防塁保存管理計画・同整備構想(策定中)
事業期間	平成29年度～平成34年度
事業位置	 <p>■国道4号北側地区</p> <p>■下二重堀地区</p>
事業概要	 <p>■駐車場整備イメージ図</p> <p>下二重堀地区と国道4号北側地区の周辺に園地整備を行う。 下二重堀地区周辺においては、駐車場・遊歩道の整備を行い阿津賀志山防塁と中尊寺蓮池を一体的に周遊できるよう整備を行う。 国道4号北側地区周辺においては、駐車場・便益施設の整備、またガイダンス広場を設置し歴史認識を深めるよう整備する。</p>
事業が歴史的風致の維持向上に寄与する事由	<p>阿津賀志山防塁の保存状態が良好な下二重堀・国道4号北側地区周辺を重点的に整備することにより、多くの地域住民や来訪者が史跡を体感し、阿津賀志山防塁への認識が高まることで歴史的風致の維持向上に寄与する。</p>

(2) 阿津賀志山防塁整備関連計画について

昭和56年の史跡指定以降、阿津賀志山防塁の保存・整備に関わる計画が複数策定されている。史跡指定後の阿津賀志山防塁整備に向けた動きは以下のとおり。

- 昭和56年(1981) 3月14日 全体の約1/3が国史跡への指定
- 昭和55年～昭和63年 史跡公有地化事業(下二重堀地区)
- 平成元年 『八百年祭』の開催

平成元年～平成6年 阿津賀志山防塁保存管理計画策定委員会

『阿津賀志山防塁保存管理計画』の策定(平成6年3月)

- 今後の適切な保存のための方針と各地区の管理基準を定める
- 未指定地の追加指定を目指した調査と指定地の公有化
- 整備・活用の必要性

- 平成18年～平成19年
史跡公有地化事業(国道4号北側地区・高橋地区)

平成18年～平成20年

- ・阿津賀志山防塁整備懇談会の開催
- 整備基本構想策定に向けた動き

- 平成20年～平成27年
史跡追加指定に向けた範囲確認の発掘調査

平成23年～平成27年 阿津賀志山防塁整備計画策定委員会

『阿津賀志山防塁整備基本構想』の策定(平成27年6月)

- 阿津賀志山防塁の意義
- 整備の基本方針・整備地区の選定
- 整備スケジュールの策定

平成27年～ 阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会

『阿津賀志山防塁整備基本計画』の策定

- 周辺整備を含めた整備地区のゾーニングおよびパース
- 保存科学的見地を含めた工法の方向性
- 史跡整備後の活用活性化や周遊性の向上

- 平成28年～
史跡公有地化事業(二重堀始点地区・4号北側地区・下二重堀地区)

6. 計画策定に向けた体制

本計画策定に向けた体制について以下に示す。

